

好投手の前に打線沈黙…

1回戦

11年秋季リーグ
第1週・9月4日
0勝1敗

東洋大3-0駒大

東洋大	110	100	000	3
駒大	000	000	000	0



4安打と奮わなかった打線

初戦の相手は、王者・東洋大。試合は序盤、エース・白崎勇気(営4)が早々と失点し2回で降板すると、打線も好投手・藤岡貴裕(4年桐生)の前に散発4安打9三振と沈黙。初戦、勝つて勢いをつけたいところだったが、手痛い黒星を喫した。

「申し訳ない」。初戦を終え、エースの口から出た言葉は後悔の一言だった。初回、先頭打者に中前安打を許すと、1死二塁で3番打者に中前適時打を浴び、即座に先制点を奪われた。続く2回にも単打と長打の連打で追加点を挙げられ、3回からは他の投手にマウンドを譲った。「いい見えてくるはずだ。」

つもは試合で修正していくんですけど、今日はそれに失敗した。チームに申し訳ない」と肩を落とした。打線も春、1点に抑え込まれた藤岡相手に今回も苦渋をなめさせられた。2回に5番・友滝健弘(政4)が初球を中越二塁打にすると、続く6番・江越大賀(法1)が四球を選び1死一、二塁の好機を演出するが、最速149キロの直球の前に手がでない。さらに、7回、江越が中越三塁打を放ち再び1死から好機を作るが、二者連続三振と相手の要所を締める力投で後続が続かず完封。主将・岡将吾(法4)も「今日は投手が粘ってくれた。今度は打線で援護したい」と、次に向け意気込んだ。

【駒大】	打安点
④小林	200
⑧嘉数	300
PH奥野	100
8中谷	000
⑥岡	400
⑤白崎	400
⑦友滝	410
⑨江越	320
DH横嶋	410
②戸柱	200
③増本	200
計2940	

▽二塁打=友滝
▽三塁打=江越

	回	打安責
●白崎勇	2	1252
小倉	3	1121
高橋涼	1/3	200
栗林	2/3	100
木村	12/3	810
井口	2/3	200
高橋一	2/3	200

写真=松井智子
文=池田初

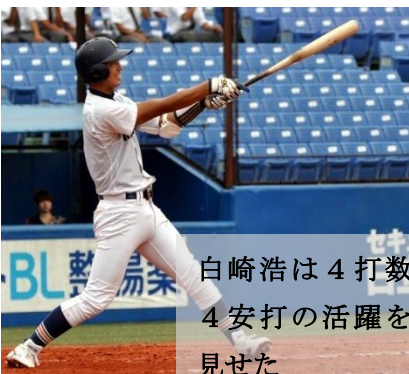
07年春以来

9季ぶりに 白星挙げる 東洋大0-4駒大

2回戦

11年秋季リーグ
第1週・9月5日
1勝1敗

駒大	120	000	100	4
東洋大	000	000	000	0



白崎浩は4打数4安打の活躍を見せた



7回、危機を脱し、吠える井口

初回、柴田圭哉(商4)の右越適時二塁打で先制する。4番・白崎浩之(法3)の全打席安打などで9安打と打線が好調。投げては、継投した井口拓皓(経3)が7回1/3を4安打に抑える好投を見せるなど、投打がかみ合い昨春王者の東洋大に勝利した。

リーグ戦では初先発の1年生・木村大希(営1)は、1回2/3で2安打を放たれ降板。代わった井口は、7回に無死一・二塁のピンチを招くが「いいリズムで行けた」と続く打者を飛球、三振で抑えた。その後2回は三者凡退と好投し、無失点に抑え「カーブ、フォークを投げ込めたのが良かった」と自身の投球を振り返った。

先頭打者が四球で出塁すると、白崎浩が中前適時打を放ち追加点を挙げた。前日の4安打・無得点という嫌な雰囲気を持ちよくするよう、4番の白崎浩が「公式戦では初めて」という、4打数4安打の活躍を見せるなど、いい流れを作り、東洋大相手に完勝。

主将・岡将吾(法4)は「(明日は)一回やられていたので、藤岡から打って勝ちたい」と意気込み、3戦目に挑む。

写真=水出綾香、桑田静香、文=服部萌香

【駒大】	打安点
④小林	300
⑧中谷	212
8嘉数	100
⑥岡	510
⑤白崎	441
DH柴田	311
⑦友滝	400
⑨江越	300
③増本	300
計3294	

▽二塁打=柴田、中谷
戸柱

	回	打安責
木村	12/3	720
○井口	71/3	2640